

2025年第5回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○神奈川新聞杯

神奈川新聞は、神奈川新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○錦秋ステークス

錦秋（きんしゅう）は、紅葉が錦の絵柄のように色鮮やかな秋の様子を表現した言葉。

○京王杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、1965年に『京成杯3歳ステークス』として創設された重賞競走。当初は中山競馬場の芝1200mで行われていたが、1980年に東京競馬場の1400mに変更された。また、1984年のグレード制導入によりGⅡに格付けされ、1998年に『京王杯3歳ステークス』に改称された後、2001年の馬齢表示の国際基準化に伴い、『京王杯2歳ステークス』となつた。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○オキザリス賞

オキザリス（Oxalis）は、カタバミ属の球根類の総称。南アフリカや熱帯アメリカが原産。日本には、江戸時代に渡来したとされる。花色は種によって桃・白・黄など多彩で、光に反応して花が開き、暗くなると閉じるという特徴を持つ。花言葉は「喜び」「母親の優しさ」。

○顕彰馬選定記念イクイノックスメモリアル

本競走は、イクイノックス号が本年顕彰馬に選定されたことを記念して実施される。

同馬は、国内では『天皇賞（秋）』『有馬記念』『宝塚記念』『ジャパンカップ』を制し、さらに海外では『ドバイシーマクラシック』も制して国内外で合わせてGⅠ6勝を挙げた。さらには2023年のロンジン・ワールドベストレースホースにも選ばれたことなどが評価され、中央競馬の発展に多大な貢献があったとして顕彰馬に選定された。

○アルゼンチン共和国杯（G II）

本競走は、1963年に日本とアルゼンチンの友好と親善の一環として、アルゼンチン・ジョッキークラブから優勝カップの寄贈を受け、『アルゼンチンジョッキークラブカップ競走』として創設された重賞競走。1974年にアルゼンチンの競馬がジョッキークラブから国の管轄に移管されたことに伴い、その翌年から現在の名称となった。創設時は4歳以上芝2300mの別定重量戦であったが、幾度かの条件変更を経て、3歳以上2500mのハンデキャップ戦となった。

<第3日>

○秋陽ジャンプステークス

秋陽（しゅうよう）は、秋の陽射しのこと。絵画、写真などの芸術や短歌、俳句などの文学において、秋陽をテーマとした多くの作品を見ることができる。

○三浦特別

三浦（みうら）は、神奈川県南東部、三浦半島最南端の市。市の西側は相模湾、東側は浦賀水道、南側は太平洋に面している。市内にある三崎漁港は遠洋漁業の拠点となっており、日本有数のマグロの水揚げ量を誇る。

○奥多摩ステークス

奥多摩（おくたま）は、東京都西多摩郡にある町名およびその周辺部の山域。御岳山や雲取山、関東最大級の規模を誇る日原鍾乳洞などの観光スポットが有名。

○武蔵野ステークス（G III）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。当初は春季のダート2100mで行われていたが、ダート競走体系の整備に伴い、秋季の1600mに変更となった。なお、第1着馬には同年のチャンピオンズカップへの優先出走権が与えられる。

武蔵野（むさしの）は、東京都中央部の市。また、関東山地の東麓に広がる洪積台地。

<第4日>

○銀嶺ステークス

銀嶺（ぎんれい）は、雪が降り積もって銀色に輝く山のこと。

○ユートピアステークス

ユートピア（Utopia）は、「空想上の理想的な社会」「理想郷」を意味する英語。ギリシャ語の「どこにもない（ou）場所（topos）」「良い（eu）場所（topos）」に由来する。

○オーロカップ（L）

本競走は、盛岡競馬場と東京競馬場の姉妹提携を記念するとともに、地方競馬と中央競馬の友好と親善を図ることを目的として1996年に創設された競走。盛岡競馬場では交換競走として『東京カップけやき賞』が実施されている。同競馬場がある岩手県は「南部曲り家」「チャグチャグ馬コ」等に象徴されるように、古くから馬事文化が根付いている。

オーロ（Orlo）は、「黄金」を意味するスペイン語。また、同競馬場の呼称である「オーロパーク」を指す。

<第5日>

○赤松賞

赤松（あかまつ）は、マツ科の常緑針葉樹。赤褐色の樹皮が特徴。全国の山野、特に内陸部に広く分布しており、防風林として植林されるほか、庭木としても栽培される。黒松が「雄松（おまつ）」と呼ばれるのに対し、赤松は「雌松（めまつ）」と呼ばれる。

○秋色ステークス

秋色（あきいろ）は、葡萄色や柿色などの秋を連想させる色。また、「しゅうしょく」とも読み、秋らしい景色や趣のことを指す言葉。

○霜月ステークス

霜月（しもつき）は、陰暦11月の異称。霜が降りる月のため「霜降月（しもふりつき）」と呼ばれていたものが、のちに省略され「霜月」になったとの説がある。

<第6日>

○南武特別

南武（なんぶ）は、武藏国の南部の意。JR南武線の名称の由来となっている。南武線府中本町駅は、東京競馬場の最寄り駅としても利用されている。

○晩秋ステークス

晩秋（ばんしゅう）は、秋の終わりのこと。また、陰暦9月の異称。「晩秋の候」など時候の挨拶にも用いられる。

○東京スポーツ杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、『東京3歳ステークス』を前身とする重賞競走。1968年に『府中3歳ステークス』へと名称が変更され、1984年には距離が芝1800mとなった。1996年に重賞競走に格上げされた後、1997年に『東京スポーツ杯3歳ステークス』と改称され、2001年から現在の競走名となった。なお、2021年にGⅡ競走へ格上げされた。

東京スポーツは、東京スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第7日>

○カトレアステークス

カトレア(Cattleya)は、中南米原産のラン科の洋ランの一種。40種ほどの原種から多くの改良種がつくられ、ランの女王とも呼ばれている。花色はピンク・赤・黄・白・淡紫など多彩。花言葉は「優雅な女性」「魔力」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○シャングリラステークス

シャングリラ(Shangri-La)は、「理想郷」を意味する英語。名は、イギリスの作家ジェームズ・ヒルトン(James Hilton)の小説「失われた地平線」の中に登場する理想郷に由来する。中国の桃源郷伝説と結びつけて語られることが多い。

○フランスギャロ賞キャピタルステークス(L)

フランスギャロは、1995年に創設されたフランスの主要な競馬統括団体。パリロンシャン競馬場は世界で最も優雅とも言われ、その他多くの競馬場で競馬を主催している。世界最高峰のレースのひとつである『凱旋門賞』には、これまでに多数の日本馬が参戦している。本競走は、同団体より寄贈賞を受けて実施されている。

キャピタル(Capital)は、「首府」「首都」「(中央官庁のある)都市」を意味する英語。

<第8日>

○ベゴニア賞

ベゴニア(Begonia)は、シウカイドウ科ベゴニア属の植物の総称。原種は熱帯・亜熱帯に分布し、その数は2,000種余と言われている。葉は左右非対称で、色彩・模様・形状など変化に富み、花色も淡紅色・白・黄・赤・紫など多彩。花言葉は「愛の告白」「片思い」。

○オリエンタル賞

オリエンタル(Oriental)は、「東洋的」「東洋風」を意味する英語。また「(宝石が)上質の、光沢が美しい」という意味もある。

○アプローズ賞

アプローズ(Appleause)は、「拍手」「喝采」を意味する英語。数多くの競走馬の中から激戦を勝ち抜いた者に対する称賛の意味が込められている。

○ウェルカムステークス（ジェンティルドンナ追悼競走）

ウェルカム（Welcome）は、「歓迎」を意味する英語。ジャパンカップに出走する外国馬やその関係者に対しての歓迎の意味が込められている。

本競走は、去る11月25日（火）に死亡したジェンティルドンナ号の生前の功績を称えて追悼競走として実施される。

○ジャパン・オータムインターナショナル

ロンジン賞 ジャパンカップ（G I）

本競走は、「世界に通用する強い馬づくり」を目指すべく、1981年に創設された重賞競走。初年度はアメリカ、カナダ等の4ヶ国から合計8頭を招待して実施された。1982年にはヨーロッパとオセアニア地区、1983年には地方競馬の代表馬も招待の対象となった。また、2008年に創設された秋季国際G I競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』に指定されている。

ロンジンは、スイスのサンティミエに拠点を置く時計ブランド。本競走は、同ブランドより寄贈賞を受けて実施されている。